



# 支部だより No.153

日本山岳会京都・滋賀支部

2023年12月15日

## 冬の訪れを前に

支部長 笠谷 茂

夏の暑さが長引き、これまでより短い秋が過ぎゆき2023年もあと少しとなりました。いかがお過ごしでしょうか。私たちの活動を取り巻く状況を振り返りますと、3年以上にわたり翻弄されてきた新型コロナウイルス感染症のフェーズは変わりましたが、反動を含めいろんな影響が残っています。猛暑を超えた酷暑を経験しました。熱中症への備えのみならず、北アルプスで山小屋の営業を脅かした水不足や動植物の変化も見逃せません。熊（罫）の人間生活圏への出没、被災の報道が多かったことは残念な限りです。遭難事案が多発したことも特筆に値します。今後とも状況を踏まえた備えが求められます。

冬山シーズン到来です。積雪期用装備の手入れにも心が弾みます。暖冬との長期予報もありますが、昨今局地的な大雪の発生もあります。入山にあたっては気候変動がもたらすリスクへの注意が必要です。近郊の山では好天時には空気が澄み展望が望める季節です。白く輝く遠くの峰など、山座同定にも心が弾みます。季節は冬、想定されるリスクに対して主体的に向き合い、事故の未然防止に努めそれぞれのフィールドを楽しみましょう。

次年度の山行計画策定の起点となる山行部会を10月25日に開催しました。支部の現状をふまえて、より多くの会員が参画できる魅力ある企画を策定していきたいと考えております。ご提案等ございましたら、役員、委員へお伝えください。

支部運営に携わる支部会員の構成が変化（高齢化、少数化）している中、友の会制度の見直しを行います。支部会員は日本山岳会の会員または準会員であることが必要です。日本山岳会には入会ハードルを下げるお試し（期間最長3年）の準会員制度があります（2016年度にスタート）。当支部においても準会員を経て、会員になる方が出てきている中、支部として制度上のお試しは準会員制度に一本化することとし、友の会への

新規入会は停止します。これに伴い友の会制度は今後集約する方向で検討しています。友の会会員の皆様には日本山岳会の準会員または正会員へ移行いただくことを是非ご検討ください。支部会員として一緒にクラブライフを楽しみましょう。

今年度の日本山岳会年次晩餐会（12月2日開催）は申込み方法が変更されました。従来は会報「山」に同封された振込用紙を用い、参加希望者が直接本部へ参加費用を振り込むことで行ってきましたが、今年度より支部所属会員は支部へ参加費用を振り込み、支部でとりまとめた上で代行業者（JTB）へ振り込むという形に変更になりました。本件、9月15日に支部だより発送を行った後の、10月11日に本部からの突然の変更事前通知があり、支部会員の皆様には支部からの個別案内がない状態で10月末に会報「山」と同封の案内で知らされた形となりました。支部の連絡先、入金方法、納期等が伝わらないなか、問い合わせに対し役員、委員でフォローする形とせざるを得ませんでした。情報伝達の至らなかった点お詫び申し上げます。

支部の現状として、全ての会員の皆様への連絡手段が年4回発行の支部だより送付（メール配信含む）に限られているなか、即時性、省力性、低コストも踏まえたメール配信やホームページ活用等を進めることも支部運営負担低減のために必要な課題と認識しております。

引き続き会員の皆様の会務へのご支援、ご理解、ご協力を宜しくお願い致します。皆様が良い新年をお迎えになることを祈念しております。

## 活動報告

歴史と文化の山旅

元山上口から修験道の聖地、  
千光寺を歩く山旅

伊原哲士

地球温暖化が更に進み、「地球沸騰化」と言い出す始末だ。今年も記録的な猛暑が続いた夏だ。

今回は湖東の「安土城址と佐和山城址」を訪ねたが、木陰の乏しい酷暑の安土城址で力尽きて佐和山城址までたどり着けなかった。それを教訓に、奈良の平群にある元山上の千光寺界隈ならば木々も多く、猛暑の8月の夏でも少しは涼しいかと企画した。後述するが、甘かった。

奈良県の北西部に位置する平群は、西に信貴生駒山系、東に矢田丘陵が南北に連なる。その間を過去に「平群川」と呼ばれた竜田川が南流する。古代に都のあった飛鳥に位置する三輪山から遠望して「辺国（へのくに）」と呼ばれた地が「平群（へぐり）」と呼び替わったとも考えられている。

8月19日（土）は晴天だ。近鉄生駒線元山上口駅改札午前9時00分に関本俊雄さん、藤綱珠代さん、幣内規男さんが集合した。この時点でも、気温は上昇し続けている。上野陽子さんが遅れるとのことで、他は全員揃ったので定刻に出発した。

元山上口駅周辺は新興住宅街となり、アスファルト道が続く。正直、暑い。

「倭（やまと）は国のまほろば たたなづく青垣 山隠（やまこも）れる 倭し美わし 命の全（また）けむ人は 豊薦（たたまこも）平群の山の 熊白禱（くまかし）が葉を うずに挿せ その子」

これは、倭建命（日本武尊ヤマトタケルノミコト）が東征の帰途、伊勢の能煩野（現在の鈴鹿辺り）で病に倒れ大和に帰り着くことなく身罷った。望郷の念にかられて詠んだ歌だ。『古事記』に載る。次に意識する。「大和は国々の中でも良いところだ。重なり合う青垣のような山々に囲まれて美しい。命を全うして大和に帰れる人は平群の山に茂る熊白禱の葉をかんざしにして挿しなさい。あなたたち。」

若き頃に平群の山を訪ねた時は、「青垣のような山々」の名残りが確かにあった。

生駒山口神社辺りにたどり着くと木々の緑が増える。75段の急な石段を登ると朱塗りの春日造りの本殿。生駒山口神社の石段正面に「首なし如来」がある。首から上を欠く為、地元では「首なし地蔵」と呼ぶ。来迎印を結んでいるので阿弥陀如来とされる。

小石仏のある二本杉からは昔の土の道に入る。樹間を行くのでやや涼しい。櫛原川（いちはらがわ）沿いにしばらく歩くと、清滝石仏群に着く。八尺地蔵磨崖仏の少し先の上部から一条の滝が落ちる。その下部に鎌倉時代の五輪塔。こちら辺りが一番涼しい場所だ。滝の対岸の岩に、釈迦・薬師・地蔵・弥勒・阿弥陀の五尊仏が刻まれている。対峙して阿弥陀三尊が刻まれる。今回のコースで唯一涼しい場所なので少し長い休憩となった。

昔日の茶屋の跡の横を抜ける。茶屋は、その昔は多

くの人が訪れて賑わったのだろうが、今は見る影もない。

土の道は終わり坂を歩くと角に「揺るぎ地蔵」。鎌倉時代の蒙古襲来の時、快尊が「国難排除」を願い建立したもの。その後、祈れば病が揺らぐ（治るの意）として「揺るぎ地蔵」の信仰を得た。

「揺るぎ地蔵」の急坂を抜けた所が千光寺。奈良時代、役行者が修行の時、千の光を放つ千手観音が現れた。寺の名を「千光寺」とした。千光寺の開基は役行者。大峰山を開く前にここで修行した為、この地を元山上という。役行者の母も共に修行したので女性の修験者も多い。別名に「女人山上」とも呼ぶ。寺にはユースホテルが併設されている。

千光寺で遅れた上野陽子さんが追いつく。住宅街で少し迷ったが、たどり着いたという。

帰路の時間と酷暑もあり、千光寺で下山する。往路の清滝石仏群の道を抜け、東山駅の「音の花温泉（ねのはなおんせん）」に抜けようと思ったが、住宅街の木陰なしのアスファルト道を歩く気になれず、元山上口駅から東山駅まで電車で移動した。

「音の花温泉」は都市に近い隠れた秘湯。ナトリウム・炭酸水素塩温泉。昔は料理旅館だったが、温泉のみになった。山の中なのに毎日新鮮な魚を取り寄せる海鮮料理が安く美味しい。

温泉入浴の後、簡単な懇親会をして散会した。或る意味、軟弱な例会だが、これもまた面白きかな。

実施日：2023年8月19日（土）

参加者：伊原哲士（L）、上野陽子、関本俊雄、藤綱珠代、幣内規男



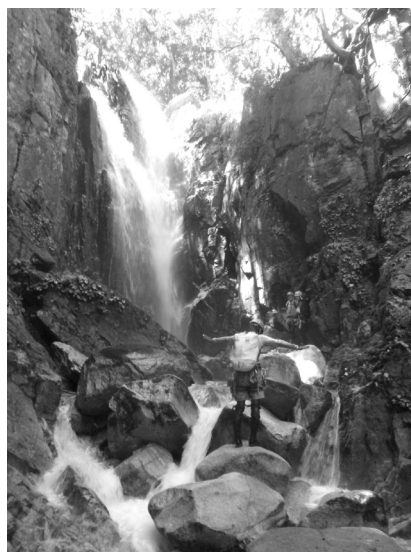
千光寺にて

## 八池谷(八淵の滝)

瀬崎暢子

健幸登山教室の沢登りで八ツ淵の滝へ行ってきた。沢上谷(そうれ谷)の予定だったが、天候不良のためこちらに変更となった。八淵の滝は比良山系最高峰の武奈ヶ岳の北東に端を発する鴨川源流にかかる名瀑で、八つの淵と釜、大小12の滝群をかける。今回は魚止ノ滝の少し下流から入渓するため、ガリバー村ではなく黒谷の林道にある空き地に駐車した。8月最後の日曜日にふさわしい晴天で朝から暑かった。すぐに沢に入るといって最初から沢登りの装備で9時前に出発。林道をしばらく歩いて沢に降りた。明るい沢で流れている水もきれい。少し冷たかったが暑いから気持ちよかった。実は沢登りは私の人生でこれが4回目。2回目に行った沢山行が大変だったので「もう嫌だ」と思ったのに、懲りずに行った3回目の「奥の深谷」は少し楽しかった。だから今回はどうなることやらと不安まじりの参加だった。ドキドキしながら入渓してすぐに魚止ノ滝(6m)がやってきた。土井さんがスイスイと登ってロープを出してくれる。先行者が登り初めて苦戦しているのを見て、すっかりビビってしまった私は松下さんと一緒に右側から高巻した。滝の上で登ってくる皆をみて「すごいなあ」と感心する。なんだかちょっと自分が情けなくなり、ここから先は頑張ろうと思った。魚止ノ滝を過ぎると障子の滝が出てくる。夢中になって進んでいたの細かいことは曖昧だが、懸命に土井さんのステップ通りに続き、梯子、滑りやすい岩の鎖を登って巻いた。「はい、オッカー」と言われほっとする。沢が滝つぼに落ちる様子は圧巻で、音もダイナミックだ。こんな滝のそばに来られるなんて沢登りってすごい。次の滝は空戸ノ滝。滝に名前がついているので覚えやすい。沢沿いコースを歩く松下さんは所々で声をかけてくださるが、ここから大摺鉢まではしばしお別れとなる。空戸ノ滝のゴルジュ帯に突入し、中段には深い瀧があり、左岸のロープをつかみながら流れをさかのぼる。米森さんに、ザックのハーネスは外しておく泳ぎやすいと教えていただく。なるほど、そうするとザックが良い感じに浮いてくれるので泳ぎやすい。流れにさかのぼって泳いだり、へつたりするのはホールドがないと流されそうになる。足を動かしながらロープを持って左岸の岩場に到着した。狭い岩場を通過するため、先に土井さんにザックを上げてもらい、お助けスリングで引き上げてもらった。何とか難所をクリアできたかと思いきや、次なる壁

が待っていた。登りにくいヌルヌル滑る岩場を登る。「ホールドがないところは手のひらを押し付けて登るといいですよ」米森さんが声をかけてくれる。自分では登れないと思っても、言われた通りにすると登れるから不思議である。大摺鉢への最後の岩場がやってきた。上から松下さんが手を振っている。あれを登るのか…少し弱気になるが、張り切って「先に行きます!!」と岩場を登る。途中で登りにくいところが出てきたが、松下さんと先に登ってロープを出してくれている米森さんの2人の神のような「小さなへこみを使って」という声かけで登ることができた。登った先は大摺鉢だった。これまでの流れの激しい沢とはうって変わって、静かでほっこりできる場所だった。「八淵」と彫られているテーブルロックも面白い。日差しもあり冷えた体にはとてもありがたかった。皆さんも次々に登ってきて、時計は11時20分。ここでランチタイムとなり、この先は貴船の滝までで折り返すこととなった。大摺鉢を越えるとなだらかなナメ状の沢が出てきて、白い岩が青空に映えてとてもきれいだった。沢登りは激しい岩場と緩やかなナメの沢とのバランスが楽しいなあ。難しいところを越えられたときは嬉しい。やはり魚止ノ滝はチャレンジするべきだったなと後悔した。やがて美しいゴルジュの先にある屏風の滝に差しかけた。滝は高巻きするが、ゴルジュのそばまで連れて行ってくれた。両側の緑色の岩壁とエメラルドグリーンの深い釜がとても神秘的。沢登りでしか体験できないことだ。右岸をへつりながら進むが水流に負け、せっかくのビューポイントでまたしても溺れそうになってしまった。すんなり巻き道に戻り上から見物した。そしてこの日ラストの貴船の滝へ。30mの落差は日本の滝百選らしい。滝のそばまで土井さんのアテンドで行くことができた。滝からの風は強烈で、ずっとそばにい



貴船の滝

ると寒いくらいだった。マイナスイオンをたっぷり浴びて元気が出た。貴船の滝の上までくると、岩に埋められた遭難碑があった。滑落した高校生のものだろう。悲しい気持ちになり手を合わせる。沢登りは危険なスポーツだ。慎重に安全登山を心がけようと心から思った。いよいよ下山となり沢沿いルートで戻るが下山は早い。わかりきったことだが登山道は暑かった。14時20分、駐車場に到着した。そのあとは解散となり女性陣は松下さんに、日本の棚田百選・「畑の棚田」に連れて行ってもらった。稲穂は黄金に色づき始め、棚田の最上段から見た景色は、山の頂上から見るのとはまた違った美しさがあった。沢登りと美しい景色を堪能して日頃の仕事で尖った心もまあるくなった。ご一緒いただいた皆さんのおかげで安全に楽しめて、とても充実した1日となった。たくさんご指導いただき感謝でいっぱい。そして4回目にして沢登りがとても楽しくなったのもっとトレーニングしていろいろな沢に行ってみたい。

実施日：2023年8月27日（日）

参加者：松下征文（L）、土井文雄（SL）、米森昌一、上野陽子、矢野達子、瀬崎暢子

## 北山探訪

### マイナーピークを訪ねて・白倉岳

#### 竹下節子

9月なのに猛暑は続く。滋賀の気温は今日も30度超えだ。そんな中、7時30分、参加者5名の車が3台、坊村駐車場に集合した。5名は2台の車に分乗し、栃生の白倉岳登山口へ向かった。車の1台は登山口の栃生にデポして、もう1台は下山する村井登山口へデポした。今日は、栃生登山口から南岳⇒中岳⇒白倉岳⇒烏帽子峠⇒烏帽子岳⇒牛コバ⇒松本地蔵⇒村井登山口のコースをいく。

白倉岳は、武奈ヶ岳とツルベ岳に対峙した標高949.68mの山だ。高さは低いが、北山の奥に潜む静かな名山だ。私は25年前に逆コースを歩いたが、地図にない山としか記憶にない。その時に見たかも知れない、大きな台杉やブナの巨樹に出会えることを、今日は楽しみにしている。また、今年は熊に遭遇した話をよく聞くので注意して歩きたい。7時45分、歩き始めると、道端に早速「熊出没注意」の看板が立っていた。熊はいるのだ。一瞬恐れたが、そのような気持ちはすぐに消えた。いきなり急登が始まった。高度差約700m

を今から登る。激登りには、お助けロープがついているらしい。そんな急坂に負けないよう適宜水分をとりながらすすんだ。553m地点にくると傾斜は緩やかになって一息つくが、また坂道は繰り返す。10時、白倉連峰登山道の古い道標で飲み物を飲んで、立ち休憩をする。リーダーに「もうすぐ平坦になるから頑張ろう。」と励まされて40分ほど歩いた。今度は軽くおやつでお腹を満たし、最後の登りに備えた。東南に目を移すと、そこに武奈ヶ岳が見えた。11時、急坂を登り切って920mの東尾根分岐の稜線に乗った。ここからは楽しんで歩こう。登山道はなだらかになり、自然林にはブナの木が目だつようになった。ブナの巨樹をカメラに収めようとするが上手くいかない。すると「こうして撮るんや！」と大先輩から実技指導を受けた。なるほどだ。迫力のあるブナの写真が撮れた。楽しい自然が次々に出てくる。真っ赤な丸いキノコ、タマゴダケが2本道端に出ていた。「こんなのが食せる！美味しい！」なんて信じられないから採取しなかった。そして心地よい樹林の道に誘われて南岳に着いた。11時15分、たちまち赤いシートが敷かれて、何やら山上にレストランができあがったようだ。先輩のザックには氷で冷やしたお素麺12束分、お薬味、素麺つゆ、等々が詰められていて、それらが赤いシートに並べられた。思いもよらぬ重いザックの中身に皆は驚いて、労いの言葉と感謝の意を伝えた。お素麺を頂く準備が整ったら、リーダーのいつものワインが「頂きます。」の合図。皆、自分達のお弁当はそっちのけで、お素麺でお腹いっぱいにした。お陰様でクールダウンを兼ねた最高のランチになった。

さて次は中岳924mに向かう。大きな台杉に出会える所だ。快適に道を歩いていると、何股にも枝分かれ



大きな台杉に登る

した杉や、幹の途中でN字に曲がった変な木も現れた。それに引き続き現れたのが、樹齢400年を優に超える台杉だった。楽しみにしていた大きな台杉をぐるっと一周、前から後ろ側まで眺めて登った。何処から見ても見応えのある台杉は、自然が生んだ芸術作品と言える。ガイド本の写真では伝わらない迫力とエネルギーを感じた。

次は本日の目的地、マイナーピーク「白倉岳」を訪ねる。あと20分ほどの山路には、ヤマジノホトトギス(山路の杜鵑)が可憐な花をいくつも咲かせていた。

12時50分、二等三角点(標高:949.68m 点名:村井村)のある「白倉岳」に着いた。まずは、三角点の標石にタッチする。いつもの皆の癖である。山頂は道標と吊り標識はあるが眺望はない。30年前のガイド本には、「山頂からは武奈ヶ岳が大きく間近に見え、琵琶湖の北半分が一望できた。」と記してある。現在は生い茂る樹木を見て想像する。山頂に10分ほどいた。

高島トレイルの烏帽子峠、烏帽子岳の道標を過ぎて村井の分岐までくると、平坦な道はここで終わり、村井への降りにさしかかる。徐々に東寄りに、右手を巻くように降っていく。右側に落ちないようにと緊張した。大杉を過ぎ牛コバ辺り?から歩き続けて30分。550m付近で「熊だ! 親熊と子熊だろう。」とリーダーの声がした。遠巻きに通過していく親子の熊を目撃! 一瞬ヒヤッとした。それから皆、足早に、声を出して歩くことにした。そして松本地蔵で一息つき終点まで降った。15時53分、村井の登山口へ全員無事下山した。

マイナーピークを訪ねる山行は眺望がなかった分、山の静けさと、山深さが愉しめた。土曜日でも人に出会うことなく、5名で一山貸し切った。平均年齢70歳超えを感じさせない、歩く力と食べる力、笑顔にする力「愉



「白倉岳」山頂二等三角点にて

しむ力」は、山を変えてくれると感じた山行だった。

今日は良い一日となりました。皆さま、お疲れさまでした。ありがとうございました。

実施日:2023年9月2日(土)

参加者:八木 透(L)、大槻雅弘(SL)、安東勝浩、山崎 泉、竹下節子

## 健幸登山教室 2023-7

### 西穂高岳

矢野達子

9月9日~10日の西穂高岳山行の前日、9月8日には台風13号が東日本の太平洋側を北上し、千葉県、茨城県、福島県では線状降水帯が発生し激しい雨が降っていた。そして海上を中心に強い風が吹いていた。でも出発の9日の朝には、台風13号は熱帯低気圧に変わり西穂高岳に登る10日の早朝は台風一過の快晴になるだろうとリーダー松下さんの判断で実施が決まる。

実施が決まり、計画書、予定表を見て準備をする。持ち物はヘルメットとハーネス、カラビナ3枚、スリング、ヘッドライト…新品の電池を入れて点灯確認しておくこと、と計画書は丁寧に書かれている。地形図も1/25000の「笠ヶ岳」をコピーした。スマホのアプリの地図も取り込んだ。

集合時間は南草津駅に朝6時35分。JR琵琶湖線の到着時間に合わせて頂いている。きめ細かな計画、予定表を見て山行への不安が山行への期待に代わっていく。

ロープウェー西穂高駅に12時過ぎに到着。昼休憩を取り、12時30分のロープウェーに乗る。予定通り。

13時西穂高登山口はガスっている。槍ヶ岳展望台からは何にも見えない。真っ白。せっかくここまで来たのに眺望がないなあと、少し期待していたので残念に思いながら、西穂山荘に向かう。14時50分着。予定より少し早く到着できた。山荘の前は土曜日ということで沢山の登山者が休憩している。せっかく担いで持ってきたので山センボトルのお湯を使ってコーヒーを淹れて一服する。山小屋前の至福のひと時をゆっくり味わう。

少し休んで山小屋の受付をした。到着の受付の順番で夕ご飯の時間が決まる。9月の土曜日なので、山小屋は満杯である。夕食は4交代制の3番目。5時30分からと伝えられた。

部屋に案内してもらって、荷物の整理整頓、布団の

準備をして休憩する。ホッとくつろぎタイムを過ごす  
と松下さんがロープを取り出してロープワークの練習  
をする。ムンターヒッチ、グローブヒッチ、ボーライ  
ンノット、ダブルボーラインノット、チェストハーネス、  
簡易ハーネスの作り方を復讐する。見事にあやふや！  
しっかり覚えていない。記憶のハンコはすぐ薄れてい  
く。でもリーダーの松下さんがまた気長に教えてくだ  
さる。申し訳ない。そして、ありがたい。

当日の朝は3時30分起床。4時20分西穂山荘を出  
発する。東の空には下弦の月と明けの明星の金星が輝  
いている。南東の空45度には冬の星座オリオン座の三  
つ星が輝いている。少し寒い。ヘッドライトを点灯さ  
せてまずは丸山に向けて出発する。大きくゴロゴロし  
た丸い岩を登っていく。4時30分西穂丸山に到着する。  
まだ薄暗い。朝ごはんを食べようかと思ったが、まだ  
まだ先は長いので、水分補給と少し塩分タブレットを  
口に入れて西穂独標に向かう。標高2650m ぐらいから  
周りが明るくなってくる。北の笠ヶ岳、西の焼岳、乗  
鞍岳、南の八ヶ岳がオレンジ色に染まり、360度の展  
望だ。遠くに富士山も見える。右前には明神岳の稜線  
も見えてくる。西穂独標に到着5時59分。オレンジ色  
にたなびいていた雲が薄い白色に変わり、足元のはる  
か下には上高地の町並みや梓川の流れが見える。そし  
て、目指す西穂高岳が見えてくる。そのアップダウン  
の稜線は今までの岩稜帯とは違う。急峻である。足が  
すくむ、足の置き場が見えない。岩場の下りは松下さ  
んに確保してもらい進む。ピラミッドピーク、チャン  
ピオンピークを越え、第4峰、第3峰、第2峰、そし  
て本峰、西穂高岳2909m 到着である。8時3分到着で  
ある。素晴らしい天候に恵まれ360度の展望である。  
ジャングルも奥穂高岳も前穂高岳も明神岳もすつき  
り見える。素晴らしい稜線である。ご褒美みたいなよ  
い天候に恵まれ、リーダー松下さんと西穂高岳に仲間  
4人で登ることができた。嬉しい。1時間ぐらい写真を  
撮ったり、朝食を摂ったりして過ごした。



西穂高岳山頂にて

しかし、西穂高岳からの下山は、またまた気の許せ  
ない岩場の連続だった。登りではそんなに怖くなかつ  
た山頂直下のスラブ状の岩がなかなか手ごわく、足を  
滑らせたならそのまま真っ逆さまに転げ落ちそうな箇所  
は確保してもらい進んだ。スラブ状の岩が終わり、土  
の部分に足が着いたと思った途端に10cmぐらいの石に  
足が当たり、落石となり、転がっていった。「ラク〜ッ」  
と叫んだがびっくりするくらいその石は勢いついて転  
がり落ちていく。人に当たらないで〜と「ラク〜ッ」  
と叫ぶ。松下さんも大きな声で叫んでくれた。運よく  
登山者には当たらなかった。ほっとした。

12時過ぎに西穂山荘に戻り、少し昼休憩を取り、ロー  
プウエーの駅に向かった。下りだったが西穂高岳に登  
った疲れからか、緊張の糸が緩んだせい、なかなか駅  
に到着せず遠く感じた。

下山後はひらゆの森で汗を流し、帰路についた。

6月、金毘羅岩場練習から岩場歩きのトレーニング、  
ロープワークの練習をしていただき、9月、西穂高岳  
に登頂することができた。天候とリーダーと4人の仲  
間に恵まれ素晴らしい岩稜西穂高岳山行となった。

また次のステップへ精進したいと思います。ありが  
とうございました。

実施日：2023年9月9日（土）～10日（日）

参加者：松下征文（L）、上野陽子、瀬崎暢子、  
矢野達子



西穂山頂よりの槍ヶ岳

## 今西錦司レリーフの集い

### 池ノ内直樹

いつも5月に実施されている今西錦司レリーフの集いではあるが、今年は天候での順延で、9月に実施となった。私は、初めて参加するのだが、去年のこの支部だよりに掲載されたのを見ていたので、是非参加したいと思っていた。

9月24日(日)朝9時、京都植物園に集合。そこから、車に分乗し中津川出合いを通過した後、細い集落の道を通ったところ、「細い道を通るもんだな」と思っていたら、尚もドンドン、山道を車で突き進んでいくのである。私は、大槻さんの車に乗せて貰っていたのだが、とにかく初めて参加させて貰ったのと役に立たねばという思いから、助手席を申し出たが、レリーフの集いに慣れている方が助手席が良いという事だった。その理由は、10分もしない内に理解できる事となった。とにかく、助手席に乗られた大倉さんと大槻さんのコンビネーションが出来上がっているのである。どういう事かというと、大槻さん運転の先頭車が、山道にある倒木や石を助手席の大倉さんが取り除いて進んでいくのである。勿論、大きく塞ぐ倒木や崩れ落ちた石の時は、後部座席の私や他の方々も手伝いに車から出るのである。しかし、驚いた。山道には、大きめの石や枝が落ちているのである。そこを、ものともせず大槻さんの車は「関係あるかい！」とばかりに、突き進んでいくのである。そうこうして、駐車場に着き、各々自分のザックやチェーンソー、クワ、花等を持ち車を降りて自己紹介してレリーフを目指した。その途中にも、やはり倒木があり、ノコギリやチェーンソーで木を切り、草を刈りながら、昔、小屋があったという所を横目に「今西先生が煙たい小屋と言っていたのは何処の事でしたか？」と田中さんに聞かれていたのだが、私は、今西錦司先生の本は一冊読んで、その存在は知っていたが、この会話が何の事やら、サッパリ理解出来なかった。この、「サッパリ理解出来なかった」はまた後ほど頻繁に出てくる。

レリーフに着くと荷物を降ろし、休憩した後、花を手向け、柏餅とビールを供え、大槻さんが初めて参加する私に、このレリーフが出来た歴史や毎年集い活動している事を説明して下さった。そして、レリーフの周りの草などを刈り、整備して、1人ずつ今西先生へ、手を合わせた。

その後、北山荘での昼食となった。ドアを開け、中に入ると真っ暗であったが、窓を全て開け昼食を食べ



レリーフの前にて

出すと、目が慣れてきて、陽も差し中々明るいのである。昼食中には、会話が弾み、サッパリ理解出来なかった話が度々あったが、皆さんの楽しい話だったので、私も十二分に楽しかった。こういう大先輩の話は中々聞けないので、来て良かったと思った。昼食の途中、大阪から1人で芹生峠から山道を整備しながら北山荘まで来られた方が話し掛けてこられた。山は色々な方がいるといつも思う。

北山荘を後にし、帰り道も行きに切れてない倒木を切りながら車まで戻った。最後の挨拶を駒井さんがして、大槻さんと村上さんの車に分乗して、チェーンのしてある所に停めてある私と田中さんの車までまた、「関係あるかい！」で突き進んで貰った。車中でも楽しい話で、こんな山道を運転したことない私はこういう年のとりかたをしたいと思います。

実施日：2023年9月24日(日)

参加者：駒井治雄(L)、田中昌二郎、大槻雅弘、  
中川 寛、大倉寛治郎、岡田茂久、村上 正、  
池ノ内直樹

## 古道調査

### 千草街道再々確認山行に参加して

#### 矢野達子

日本山岳会京都・滋賀支部の古道調査。その4年に及ぶ古道調査の最終の確認の再々調査(千草街道・甲津畑～シデの大木まで)にご一緒させていただいた。

古道調査の責任者村上さんは、原稿と資料、地図をバインダーに挟み、確認場所をメモしながら歩かれる。古道調査をして地元の図書館や資料館で調べると面白い史実がわかって楽しかったよと話されていた。特に織田信長、佐々木六角、住谷善住坊の話は熱が入っていた。書かれた原稿を読んでみるか? と言ってもらったが、残念! 老眼鏡をかけながらびっしり書かれた

原稿を読みながら歩くことはできないので、「またゆっくり落ち着いて読ませて貰います。」と古道千草街道を歩くことに専念した。

最初、岡田さんが登山口入口の写真を撮られていた。「自分たちが撮った写真がないので、撮っておくよ！」と言われていた。

次に地図上に示された標識や史跡の位置と現場の位置を確認されていた。千草街道散策行程看板は洪川に注ぐ枝谷の手前、堰堤の手前。善住坊の隠れ岩は、洪谷川が大きく東側に湾曲する位置と持参された地図を見比べながら確認されていた。

岩ヶ谷林道が終わり、避難小屋、トイレの確認。以前はキャンプ場であったとのことだが、「トイレと記入することはやめておこう。」と言っておられた。トイレは管理がされてないと使用が難しいようだ。

次に洪川左岸の塩津集落跡地に入っていき道をしばらく探したが、その道はよくわからなかった。標識には古屋敷・旧塩津集落遺跡、付近には石積みが残っている、と書かれていた。塩津集落跡は洪川の右岸だったようだ。そこはツルベ谷出合とも呼ばれ、右に折れば大峠に至るとのことだった。ツルベ谷への出合には橋は架かっていなかったがその流れはとても清流だった。

蓮如上人の旧跡は蓮如上人が比叡山より追われ、ここで過ごしたそう。その様子が説明のさし絵にも描かれていた。井戸も遺跡として残っていた。

最後にシデの巨木を確認した。シデの巨木の前で写真撮影をした。そしてその巨木の高さや幹の大きさを楽しみ、皆でシデのごつごつした表面を撫でながら、たくさんの旅人、登山者を見送ってきたのだろうなあと思いを馳せていた。

シデの巨木から引き返し、善住坊の隠れ岩を確認しに川岸迄下りた。善住坊が大きな岩に隠れて織田信長を狙撃しただろうと思われる大きな岩が残っていた。其の頃は、街道は洪川右岸についていたようで、対岸から狙ったことが窺われる古道のような道が見受けられた。

駐車地まで戻り、甲津畑近くの藤切神社を確認した。甲津畑のバス停から歩き出し、藤切神社の手前の橋の上流から土手に下り、飛び石のように作られた所を渡ると千草街道は始まるそう。地元の酒店の方にも確認されていた。

以前、鈴鹿の雨乞岳に登るのに、千草街道を歩いたことがある。その時は史跡や標識は通過ポイントの一つとして捉えていた。今回、古道の確認にご一緒させていただき、古道に残る史跡や文化、産業（御池鉾山跡など）などの由来を教えていただき、古道の持つ魅

力を感じることができた。

現在の千草街道の登山口は幅2mほどの道だが、その道は鉾山から採取した鉾石を運ぶ台車が通る道で、轍は鉄輪で黒光りしていたとのこと。時代とともに道の有様が大きく変わっていくことに興味を持った。

そして、今回は古道調査として京都・滋賀支部が提出する文書、地図を全国の方々に発信するための再々調査、確認のための山行にご一緒させていただき、古道調査を仕上げてこられた村上さんはじめ皆様のご苦労と責任感は途方もなく大きなものと感じました。

ご一緒させていただきありがとうございました。

実施日：2023年9月29日（金）

参加者：村上 正（L）、岡田茂久、駒井治雄、

野村綾子、松下征文、矢野達子

## 文学の山

### 夜叉ヶ池

矢野達子

10月7日（土）夜叉ヶ池山山行に参加した。

南草津駅東口に朝7時集合。1人欠席で、松下リーダーと2人で名神から北陸道を湖北へ急ぐ。木之本IC近くのコンビニで土井さんと合流。今回は3人の山行。ちょっと寂しい。奥美濃の夜叉ヶ池迄車2台で行くのはちょっと贅沢、もったいない。誰か他に誘えばよかったと反省。

登山口9時21分に出発する。夜叉ヶ池までの道のりの途中、大きなブナの自然林、気持ちが良い。登山道の両脇にはクロモジの木。小さな枝を折ってみると凄くいい匂い。「どうしてクロモジっていうか知ってる？」と松下さんに質問されて、「お菓子を食べるクロモジの材料だから。」と答えると「違う。反対。クロモジの枝が墨で点々と文字を書いたように黒いからクロモジ！」というらしい。なるほど～です。とんちんかんでした。そのクロモジの葉も黄色く色づいている。幽玄の滝の滝つぼの脇には薄紫のツリフネソウ、シロヨメナ。登山道にはダイヤモンドソウ。赤くオレンジ色に紅葉し始めているのはウルシ。そして岩の上の谷水が流れているところにモウセンゴケ。赤く色づいている。食虫植物だそう。葉がロゼット状に広がり、葉に腺毛や消科腺があり、粘液を出して虫をとらえるそうである。季節はもう秋の様相だ。夜叉壁の大きな岩を見上げて、岐阜と福井との県境まで歩いてきたことに感動！ 落葉広葉樹の自然林で紅葉が素晴らしいそう。



夜叉ヶ池に到着 11 時 8 分。時間がまだ早いので、先に夜叉ヶ池山まで行くことにした。

少し登ると夜叉ヶ池が見える。少し登ると夜叉ヶ池はハート♡の形に見えてくる。そして岩場を登ると笹がだんだん深くなり、笹藪の道となる。夜叉丸 1212m 11 時 25 分着。夜叉ヶ池山（夜叉姫）1206m 11 時 51 分着。三角点にタッチ！ 少し休憩する。三国岳に行ってきた方、三周ヶ岳に行ってきた方に出会う。どちらも笹藪が凄かった！ と言っておられた。私たちも夜叉ヶ池山まででも十分な藪漕ぎを堪能した。帰りはサングラスをして目を守り、帽子も被り直し、少し暑いのが長袖を着る。笹が刺さらないように、擦れないように、ヤマダニからも身を守る。

夜叉ヶ池の畔に着く。ヤシヤゲンゴロウの生息地だそう。絶滅危惧種に指定されているそう。以前ここに来たときは 6 月で池の畔にはモリアオガエルの卵がびっしりと池の周りの木々に産み付けられていた。季節を代えて訪れてまた違う夜叉ヶ池を見ることができた。

そして、今回は泉鏡花の「夜叉ヶ池」の舞台となっているということなので、下山後、泉鏡花の「夜叉ヶ池」を読んでみた。最近ではネットであらすじやお話を読めるということを知ってもらい読んでみた。

大正 2 年のお話である。越前三国岳の麓の里、鐘楼守の萩原晃と村の娘百合。1 日 3 回鐘を衝かなければ夜叉ヶ池に棲む龍、白雪が麓の村々を水で溢れさせると言い伝えられている。白雪は白山の剣ヶ峰の千蛇ヶ池の公達の君に焦がれている。白山谷を水流で埋め尽くして会いに行くと、眷属の姥たちを困らせている。村人の鐘楼守り晃が 1 日 3 回鐘をついている。百合も麓の日照りの為に夜叉ヶ池の雨ごいのためにいけにえにされることをしのいでいると論じている。

百合と晃、白雪と公達とのふたつの恋の物語。他の地域からやってきた晃は 1 日 3 回鐘をつく。地元民が



夜叉ヶ池畔にて

干ばつのために百合を夜叉ヶ池の雨ごいの為に牛の背中に荒縄で縛るといふ。幽玄で秘められた神事。夜叉ヶ池が舞台である。

そして、もう一つ。松下さんが夜叉ヶ池山山行の途中に話される十数年前の滑落事故のこと。山行が押しつけてきて、夜叉ヶ池に着くのが暗くなってヘッドランプを点灯しながら歩いている時に起きた岩場からの滑落事故のお話。聞いていて辛くなった。

泉鏡花の「夜叉ヶ池」の物語と共に滑落事故の話。人と人との関わりと恋する切なさや悲しみの出来事が織り重なり、夜叉ヶ池の底が底知れぬ深さに感じた。

実施日：2023 年 10 月 7 日（土）

参加者：松下征文（L）、土井文雄、矢野達子

## ダング坊遺跡整備

### 池ノ内直樹

10 月 22 日朝 9 時、イン谷口集合でダング坊遺跡整備が始まる。私は、8 時 25 分で早めに着き、駐車場に行くと、松下さんと真名子さんが、すでにパラソル下の椅子に座って待っておられた。

昨年度の滋賀県内山岳遭難発生事故 88 件の内、登山届け未提出は 46 件（警察発表）。

8 時 30 分にバスが着き、登山者が何名もレスキュー小屋の前を通る。登山者に対し挨拶しながら、目的地を尋ねたり登山届けの有無を確認して無届け者には記入して貰い、安全登山の啓発活動を行った。私もレスキュー比良の末端の者として、声掛けや登山届けの紙の事などを案内し、登山者に「気を付けて」と思いながら、お二人の輪に入った。

そして、9 時になり松田さん、川端さんが来られ、いざダング坊遺跡に向かい作業に取り掛かる。

ダング坊遺跡は比良山系最大級を誇る 82500m<sup>2</sup>の広域の山寺跡で、所々に苔の生えた石垣や石段が残りその痕跡から往時の山寺の様子が窺える。松下さんがおっしゃるには、石段近くの雑草等が石を崩してしまうので、それを刈取り整備していこうということであった。

域内は、公園化されており遊歩道の跡があるが、数十年放置され荒れ果てているが、我々の取り組みによってその面影が保たれている。昔は子供達の遠足に利用されていたとの事であった。

また、曇り空になり、風がでてきて、武奈ヶ岳の頂

上は結構な風があるだろうと話しながら、作業が着々と整備が進んだ。

雑草刈り作業が終わり休憩の時、松下さんがこの比良山系も比叡山と共に、織田信長の焼き討ちにより寺がなくなり、残っているのは坊村の明王院だけだとおっしゃった。なんでも、このダンダ坊には墓があり家屋もあったそうだ。そういう話を聴くと古の僧兵を思い浮かべられるロマンチックな場所である。

そして、比良山系には花崗岩があり正面谷には花崗岩のいいのがあるらしく、石切場があるそうなのだ。確かに、イン谷口に向かう途中石屋さんが何軒か見受けられた。柵木もあり、昔、松下さんが子供の頃は近くに刑務所があり、受刑者が炭焼きをしていたそうだ。

そして、刑務所だけでなく「ドツボ」もあったそうだ。そう。私が正月に家族麻雀をする時に、父親が叫んでいた「ドツボにハマった〜！」のドツボだ。私は、子供の頃に聞くこの「ドツボ」と言う響きが気に入って、意味も知らずずっと使っていたのだが、意味を教えてください、50歳になり子供の頃の正月麻雀の謎が解けた事にえらく感動を憶えた。

そして、レスキュー小屋隣のパトカー、消防の駐車場の前に進入しないように、杭を打ち境界ロープを張れるよう作業した。杭を打つ前に、ツルハシとスコップで穴を掘るのだが、聞いたばかりの花崗岩が邪魔をする。

昼食後、ロープを使って松下さんがロープワークを教えてください、しばらく手にして無い私は、後半思いつくことが出来た。初めて山岳会の行事に参加される松田さんも、ロープワークを身に付けようと熱心に練習されていた。ロープワークの講習が終わると、ダンダ坊遺跡整備も終了となった。

私は去年も参加させていただき、去年同様清々しい気分になれたのだった。また、皆さんと一緒に来年も参加させていただきたいと思い車に乗り込んだ。一緒にいただいた皆さんありがとうございます。



ダンダ坊にて

実施日：2023年10月22日（日）

参加者：真名子栄一（L）、松下征文（SL）、松田雄二、池ノ内直樹、高杉博和、（一般）川端治次

## 写真サークル

### おにゅう峠

野村綾子

滋賀と福井の県境にあり、紅葉と雲海が見られる人気スポット。10月22日（日）の予定だったが、前日の夕方に諸条件を鑑み日程変更を決めた。しかし、22日の朝は風が止み、気温も下がり各地で絶好の雲海日和だったようだ。実施日は暖かな朝になり雲海は諦めて、紅葉がすすんでいることを期待して行く。

朝6時に烏丸五条で幣内さんと合流。花折峠を過ぎ、梅ノ木から針畑川を上流へ、古谷集落を通って小入谷へ入る。この辺りまで来ると周囲が霧に包まれている。もしかすると雲海が見られるのではないかと僅かに期待を持ちつつ、細い林道を進む。あらかじめ確認しておいた人気の眺望ポイントにはバイクが1台止まっているだけで、その人もすぐに移動したので、狭い撮影ポイントを2人で独占できた。もう少し早く現地着していれば、雲の上に山並みが浮かぶ幻想的な風景を見ることができたのかもしれないが、少ないながらも雲海が残り、色づき始めた紅葉の美しい景色を見ることができた。

おにゅうは滋賀県側では小入谷と書くが福井側は遠敷川と書く。福井県側に降りたことがなかったので、峠を越えて福井へ入った。最初の集落が上根来でここは古道の一つ、鯖街道だった。滋賀県側に比べ、福井県側は利用する車も少ないようである。



おにゅう峠にて撮影

今日のはっきり昼食の準備を忘れてきたので、私のおすすめ店を目指して行くが、行った先はことごとくお休みで、幣内さんのお弁当を少し分けていただいて遅い昼食をとり、秋のドライブを楽しむ例会になった。

実施日：2023年10月25日（水）

参加者：幣内規男、野村綾子

## 第36回日本山岳会全国支部懇談会

野村綾子

全国支部懇談会に参加してきました。全国にある支部の方々と交流が出来るのは日本山岳会ならではの集いであり、初めての参加というのはもったいないことでした。全国支部懇談会は2019年栃木支部主催で奥日光において行われたのち、コロナ禍となり宮城支部、神奈川支部が努力されたものの開催できなかつたということです。今回は、今年で設立10周年を迎えた群馬支部主催で利根郡みなかみ町、谷川岳エリアにおいて行われました。

谷川岳といえば遭難者の多い山、クライマーを惹きつけるも魔の山という思いがあります。関東圏の方にはトレーニングの山でもあるようですが、関西人には行く機会の少ない山だと思っておりましたが、今回参加の幣内さんも松下さんも、若いころには良く行ったそうで、他支部の方々も同様に「青春の山だ！」と言っておられました。私にとっては水上温泉が魅力で、谷川岳は怖いもの見たさというところがありました。

全国からの参加者は160人程、京都・滋賀支部からは6名が参加。23日、電車組は13:00上毛高原駅を出発するバスで、マイカー組は谷川岳インフォメーションセンター駐車場に車を置き、14:30発のバスでそれぞれ主催者が用意した観光バスに乗り水上温泉の宿「坐山みなかみ」に向かう。受付を済ませるとまずは湯に浸かってきた。川の流れを眺めながらのいいお湯だったが、16:30から講演会が始まるので、さほど時間は無い。

講師は群馬県警察谷川岳警備隊長の伊藤武氏、平成9年度から群馬県警に勤務、通算18年間警備隊で山岳遭難者の救出や遭難防止活動の任務にあたってこられたキリリとした印象のベテラン警備隊員である。前半は警備隊員の訓練の様子をスライドで見ながら聞いた。魔の山に挑む強者のその上をいく強靱な体と精神と知識とテクニックを身につけるため、若い隊員は吐きながらも訓練をしているという。その後は、実際に起こ

た遭難の事例とその救護の様子を聞く。急峻な一ノ倉沢での滑落事故では発見されても、ヘリが近づける場所まで遭難者を下すのは救助隊員もまた危険を伴う。群馬県での山岳遭難発生件数は令和4年に130件あり、死亡13例、重軽傷70例あった。谷川連峰と尾瀬での発生件数はそれぞれ26件あり、合わせて全体の40%と多く、無事救助された事例の中には安易な計画の登山者も少なくない。中にはヘッドランプを持っていないとか、ヘッドランプの使い方がわからないという人もあったそうだ。安全登山の知識とテクニックを覚え、体力に合った計画で山を楽しみたいと思う。

懇親会は18:30から始まり、大広間に160人分のお膳が並び、群馬の山名を拝した日本酒と各地の銘酒が見事に並ぶ。アトラクションとして、勇壮かつ軽快な三国太鼓の和太鼓演奏が響いた後、群馬支部支部長根井康雄さんの歓迎の言葉、日本山岳会会長橋本しをりさんの挨拶、みなかみ町阿部町長の祝辞、日本山岳会副会長桐生恒治さんの乾杯発声で宴会に突入する。あれほどのお酒を皆飲みつくしたのか？ 明日の行動に影響はないのだろうか心配するほどにぎやかな宴会だった。

2日目は谷川岳インフォメーションセンターから一ノ倉沢出合までの往復を約3時間の予定で歩く。参加者が多いので6チーム編成で各チームに群馬支部の方がリーダーになり出発する。とはいえ緩やかなアスファルト道なので遅れたり、先に進んだり他チームとも交わり和やかに会話しながら歩いた。林間を抜けるとマチガ沢の岩肌が目の前に見えた。雪はない。そこから20分ほどで一ノ倉沢が見えてくる。今日は素晴らしく晴天で稜線がくっきり見えている。衝立岩を登ったのだろうか稜線に人が見えた。例年は残雪がこの時期にもあったそうだが、今年は全くなかった。トイレも渇水のため持参したペットボトルの水で洗浄するようになった。一ノ倉沢を背景に参加者全員の集合写真を撮影したが、顔はわからなくとも圧巻の写真が撮れたことと思う。ハイキングを終え谷川岳インフォ



谷川岳一ノ倉沢をバックに

メーションセンターに戻ると、気の利いたまだ温かいお弁当が配布され、日陰に座ってそれをいただいたところで解散となった。群馬支部の方は何度も足を運び、行程を練り、準備を進めたとのこと、これほどの大人数ではさぞや大変だったことと思う。群馬支部の方に感謝。

マイカー組の伊原、幣内、野村は帰路にもうひと風呂。ひなびた温泉研究所研究員の幣内さんおすすめ南魚沼にある大沢温泉幽谷荘のかけ流しの湯に浸かって帰る。

残念だったのは、あんなに天気良かったのだから、ロープウェイに乗って稜線付近からの景色を見てくればよかったと思う。走行距離 1200km、もう少し近ければ直ぐにでもまた行きたい所だった。

実施日：2023年9月23日（土）～24日（日）

参加者：笠谷 茂、松下征文、幣内規男、伊原哲士、上野陽子、野村綾子

## 支部交流山行

### 八ツ淵の滝沢登り

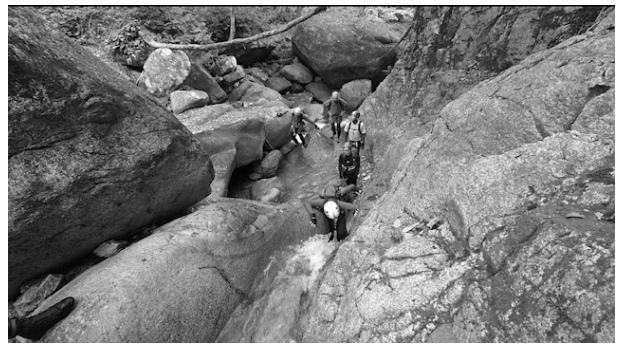
#### 大窪公三

6月上旬、数年前の山スキー五支部合同山行以来、交流のある岐阜支部の山田さんから連絡があった。「8月6日（日）に岐阜支部の沢登り初心者3人と初めて八ツ淵の滝へ行く予定だけど、大窪君、案内してくれる？」との連絡だった。山田さんとは普段から時々連絡を取っているが、山行は去年の西穂高岳山スキー以来だ。岐阜支部の方達と交流するには、よい機会なので京滋支部の仲間にも声掛けしたら、3名の仲間が参加したいと言ってくれた。

8月6日（日）7時過ぎガリバー旅行村に集合した。メンバーは、岐阜支部からCL山田さん、SL矢口さん、吉田さん、林さん、五十川さんの5名、京滋支部からCL大窪、SL村上さん、土井さん、三田村さんの4名の合計9名パーティー

八ツ淵の滝は初心者向きと言われているが、それは滝沿いの登山道を歩くルートであり、滝を登って行く場合はクライミング技術が必要になってくる。今回は、岐阜支部の初心者メンバーの方に楽しく安全に滝を登ってもらうために、自分達はサポート役に徹しながら沢登りを楽しむ事にする。沢好きの村上さんや、土井さん、三田村さんがいると心強い。

7時46分、自己紹介をしたら出発。登山道の途中か



慎重に登っていく

ら八ツ淵の滝ルートへ下り小滝を越え、魚止滝からさっそくロープを出して登っていく。今回、人数が多いので私達が先行してロープをセットし、岐阜支部のメンバーにどんどん登ってもらう時短作戦です。なぜなら、今回の最終目的地は広谷分岐だからです。（山田さんの希望）

岐阜支部の沢登り初心者3名は普段から縦走登山等されていて脚力があるので、簡単な小滝は楽しそうにどんどん登ってこられます。先行する私達が大きな滝にロープを張るのが追いつかないぐらいだ。大小の滝をどんどん登り、10時44分、第1目的地・貴船の滝に着いた。思っていたより到着時間が早い。小休止を挟み、更に沢を登っていく。滝上部の岩場を越える途中、岐阜支部の林さんがスリップして横に回転する様に転んだ。山田さんから「ロープで確保しているからよかったけど、無かったら大怪我しているよ。もう少し足下よく見て登らないとね！」と優しく注意を受けていた。登る前に岩をよく観察して、手や足の置き方もよく考えないといけない。

11時15分、七遍返しの滝に到着。七遍返しの滝も私がトップで登りセカンド以降はアッセンダーを使って登った。人数多い時はアッセンダーで登ると効率が良いが、ロープの被覆が傷みやすくなるのが玉に瑕。七遍返しの滝を越えて、沢が広がった所で大休止とした。沢で食べるカップラーメンは美味い！ お昼ごはん食べながら作戦会議。当初の予定より大分早く七遍返しの滝に着いたので、この後、まぼろしの滝を越えて広谷分岐を最終目的地とする事にした。私は、まぼろしの滝は見た事がないので、どんな滝が現れるか楽しみである。

七遍返しの滝以降、沢が徐々に狭くなり滝がいくつも現れるがロープを出さなくてもよい滝ばかりだ。12時50分、まぼろしの滝が近づいて来ると、沢は大きく右へカーブする。そしてカーブを曲がって100メートルほど歩くと、まぼろしの滝が現れた。13時6分、まぼろしの滝に到着。滝の落差は約8メートルある。まぼろしの滝と言うぐらいだから、滝が隠れているのか

と思ったら普通に現れた。想像していた滝と違った。まぼろしの滝を観察すると水芯の左側から登れそうに思えた。山田さんも「水芯の左側から登れそうだな」と仰っていた。山屋が考える事は同じだ。今回は、まだまだ先へ進まないといけないので、まぼろしの滝は左岸から巻いた。まぼろしの滝を登るのは来年のお楽しみにしよう！

まぼろしの滝以降、沢は更に狭くなり兩岸の斜面も土砂崩れが起きている所が数ヶ所あった。きっと大雨の影響だ。落石に遭わないようにさっさと通り過ぎる。まぼろしの滝から40分ぐらい進むと、岩を機械で切ったかの様な岩盤の二段の滝が現れた。

13時45分、二段の滝に到着。一段目は右岸から巻いて登る様だが、左岸を観察すると、一旦、滝壺に下りて左岸に取り付いたら登れそうな気がした。村上さんが高巻き用のフィックスロープを張っている間に、左岸からチャレンジしてみた。岩はヌメリが酷くてラバーソールでは無理か？と思ったが、ヌメリの少ない僅かなスタンスを探し、厳しい登りだったが何とか滝を登った。今日、一番気合入れて登った滝だったから、オンサイト出来てよかった。

私が滝を登っている間に、フィックスロープも張り終わり、高巻きするメンバーが登ってきた。二段目の滝は手がかりも何も無いので左岸から高巻きした。二段の滝を越えると、小滝が少し出てくるが簡単に登れるので問題ない。最後の小滝を越えたら沢の水深は浅くなり、いよいよ最終目的地の広谷分岐が近づいてきたようだ。

14時27分、快適な河原歩きが続き左岸に登山道が見え始めた所で、やっと広谷分岐に到着した。

14時35分、沢装備を片付け下山開始、帰りは登山道を下った。下山途中に大摺鉢にて全員で記念撮影をした。撮影後はさくさく下って、15時56分ガリバー旅行村に到着し下山完了。



八池谷のシンボル岩にて

全員怪我もなく下山出来て良かった。岐阜支部の仲間に八ツ淵の滝沢登りを楽しんでもらえた様で良かった。

コースタイム・ヤマレコアプリのログデータ

行動時間8時間11分(合計休憩時間1時間6分)

7:46 ガリバー青少年旅行村 - 8:54 魚止滝 - 9:02 障子滝 - 9:44 大摺鉢 - 10:34 屏風ヶ淵 - 10:44 貴船の滝 - 11:15 七編返しの滝 - 13:06 まぼろしの滝 - 13:45 二段の滝 - 14:27 広谷分岐 - 14:35 下山開始 - 15:25 貴船の滝 - 15:27 屏風ヶ淵 - 15:32 大摺鉢 - 15:35 障子滝 - 15:36 魚止滝 - 15:56 ガリバー青少年旅行村

実施日:2023年8月6日(日)

参加者:京都滋賀支部 大窪公三(CL)、

村上 正(SL)、土井文雄、三田村智子

岐阜支部 山田昌孝(CL)、矢口重治(SL)、

吉田尚史、林 真由美、五十川幸学

## 個人山行

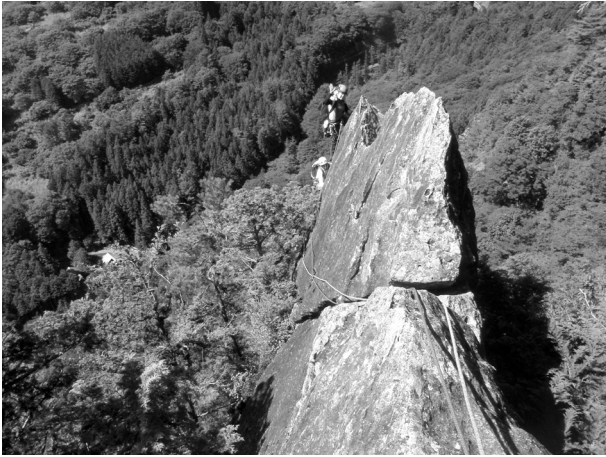
### 「太刀岡山左岩稜鉄岩」・「瑞牆山本峰南壁トムソーヤの冒険」マルチピッチクライミング

松下征悟

5月末に条件が悪く途中敗退した「大台ヶ原ブッシュマン」、同じメンバーでリベンジしようと8月末に計画していた。しかし、8月の最終週、奈良県南部は雨予報となる。悪天候で再び敗退するのは避けたいと、好天が期待できる関東方面への1泊2日の計画に変更した。

1日目、太刀岡山駐車場から踏み跡をたどり左岩稜の取り付きに向かう。10分程度で左岩稜の下に出るが、取り付きがなかなか見つからない。「取り付きを間違えると大変なことになる」と、須藤さんの言葉、はやる気持ちを抑え探ること30分、取り付きのクラックを見つけた。

このルートの核心である1P(クラック20m 5.9)をえいやーっと乗り越える。2Pを抜けたところで後続パーティに道を譲る。3Pのスクイズチムニーは、小柄な私たちはザックを背負ったまま登った。4P、5P、6Pを登ると一気に高度感が高まる。そして7Pは、このルートのハイライトであるナイフエッジ。眺望も抜群で写真映えだが、この日は、とにかく暑く喉もカラカラ。荷物を軽くするために1ℓに抑えた水の残量が気になる。8Pの岩稜を歩くと鉄岩の下部に出る。そして



ナイフエッジ

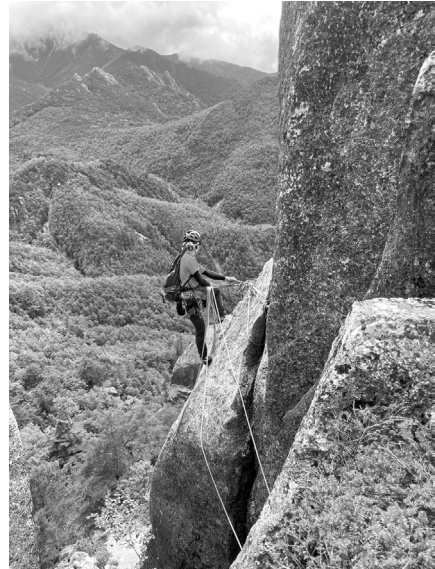
9P、鉄岩のフェイスを先端まで気持ちよく登って終了。鉄岩先端からは登ってきたリッジが見え、振り返ると富士山が見えた。下山道は、歩きやすく駐車場まで30分弱、8時間30分の山行を終える。

車に乗り込み、宿泊地である瑞牆山荘に向けて出発した。須藤さんが瑞牆山荘を訪れるのは約40年ぶり、山荘のご主人との再会で会話に花が咲く。食事と入浴を終え翌日に向けた作戦会議を行う。持っていくギアの選定に迷っていると、須藤さんがこれとこれ、これは何本とアドバイスをくださった。

2日目、夜明け前に瑞牆山荘を出発。尾根に出ると霞の上にそびえる瑞牆山が出迎えてくれた。「トムソウヤの冒険」は、大ヤスリ岩の手前で登山道を右に入る。

1Pを木登りでスタートし、2Pの洞窟へ。洞窟内のホールドは乏しい。足を高く上げて体を持ち上げ、明るいテラスでピッチを切る。3Pの洞窟出口は狭くザックをおろして抜けた。4Pは、だるまフェイスに向かって歩く。5Pのだるまフェイス（クラック40m IV）は、15m程のクラックをカムをセットしながら登り、ピナクル先端で支点を作った。岩のフリクションはよく、ハンドジャムもよく効くものの、これがIV級なん？とクラックのリードの難しさを実感した。三木さん、須藤さんと順にピナクルを超え、だるまフェイスの上のテラスへ出る。ここでクライミングシューズを脱ぎ山頂を目指す。山頂で小休止、登ってきたルートを振り返り写真を撮って下山する。下山中、朝とは違った表情の瑞牆山に見送られ、10時間の山行を終えた。

両日ともに全員が初めてのルートだったが、夏の間、金比羅に通いトレーニングした成果をそれぞれが発揮し登りきることができた。必要なギアの選定、状況に応じた的確な判断、そしてペース配分、今回も先輩方からの学びの多い貴重な経験を得る山行となった。



だるまフェイス

実施日：2023年8月29日（火）～30日（水）

参加者：須藤邦裕（L）、松下征悟、  
（一般）三木千津子

## インタビュー「この人に聞く」

### 第1回 齋藤惇生顧問

聞き手：野村綾子

京都支部（現京都・滋賀支部）初代会長で、1997年～99年には日本山岳会会長を務められました。1929年生まれ、現在も医師として多くの患者を診ておられます。

突然のインタビュー依頼に快く答えていただきました。

#### Q1 一番思い出深い山はどこですか？

9回も行ったヒマラヤ登山、国内の山行それぞれに思い出があります。その中で一番思い出深い山といえば、やはり初めてのヒマラヤ登山で初登頂隊員になったカラコルムのサルトロ・カンリ（7742m）です。隊員に選ばれた時この山で死んでも本望と思いました。（1962年日本パキスタン合同遠征隊で7月24日に初登頂されています）

食料係をして隊員、現地ポーターの食料を準備し、また、医師として隊員、現地住民の診療をしました。（そのあたり面白いお話がありそうですね、また別の機



齋藤惇生顧問

会に聞かせてください)

アタック隊員に選ばれたのは高村泰雄、ラジャ・バシールと私の3人でした。7000mのC5を午前4:30に出発して、7400mの主稜線に出たら雪が膝上程に深くなり、午後2:30ビバークを決めました。夜中2:30月明かりのなか出発、ラッセルを続け10:30登頂しました。頂上にはバシールを先に踏ませた事は後でお会いしたパキスタン大統領以下皆さんに喜ばれました。登山界の歴史に名を残すことが出来ました。

**Q2 1990年5月21日シシャパンマ峰(8027m)に60歳で中島道郎さんと共に登頂されています。医学学術登山で、2匹のニホンザルと一緒にベースキャンプで色々の検査を受けておられましたね。胃カメラ検査も受けておられましたが、登山に影響はなかったですか？**

この医学学術登山で胃カメラ検査をすることを提案したのは私でした。1980年、88年のチョモランマ登山で血便、吐血した隊員がいました。ストレスにより胃、十二指腸の炎症か潰瘍が発生していると思ったからです。言い出したのは私だったので、私が最初に受け、たいしたことはないと言ったので皆を安心させました。その後ヒマラヤで胃カメラの検査をした報告はありません。

**Q3 「あの時は本当に危なかったな」と思った経験はありますか？**

長い山行で運が良いのか本当に危ないと思った経験はありませんでした。しかし、2012年9月3日死んでもおかしくなかった転落事故を起こしてしまいました。吉野の白髭岳の事故です。頸椎(第Ⅶ)骨折で6か月入院することになりました。

あの時、ストーンと転落して転がっている間、特に死の恐怖は感じませんでした。考える暇がないほど早く、

くるくる廻っていました。

(入院中は首を動かすことが出来ず、ずいぶん辛抱されたと聞いています。その後の機能回復にも努力されたから、現在も医療に従事されておられるのですね)

**最後に伝えたいこと、支部への希望がありましたら、お聞かせください**

コロナも収まってきました。国内外、パイオニアの山行を皆さんが続けられることを期待しています。

## 新入会員自己紹介

◎中尾光利(No.17146)

会員になりました動機は、会員の皆様の熱意を感じまして、あまり人付き合いが苦手な私でも少しは行けそうかなと思い、土井さんの推薦で入らせて貰いました。これから登りたい山は、子供と一緒に登れる山が理想です。難易度の高い山は、子育てが終わり育ってから挑戦したいと思います。これから取り組みたい活動は、先輩方の取り組み方を勉強し、怪我なく安全な登山を伝えていきたいと思っています。

◎栗野雅巳(No.17154)

日本山岳会への入会動機は、先輩から日本山岳会の事を聞きました。日本全体の山岳会に入会が出来て光栄に思います。これから登りたい山は、南アルプス、ブナの美しい山です。今後取り組みたい活動としては、講習会に参加して登山の技術を身につけ安心安全な登山が出来る様になり、南アルプスを含めアルプス関連に挑戦していきたい。また雪山にもチャレンジしたい。

## 行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

### 「日本山岳会京都・滋賀支部新年会」の案内

下記の日程で感染対策を徹底した上で、支部の新年会を開催します。会員、友の会、会友の皆様はお忙しい頃と思いますが、是非、ご参加下さい。配偶者等の出席も歓迎です。出欠の連絡は、1月11日（木）までに同封のハガキ（63円切手を貼付下さい）もしくは下記の担当者までメール等をお願いします。酒類は控え気味に提供。オークションは提供の品があれば小規模開催します。

**実施日**：2024年1月17日（水） 午後6時30分から午後8時まで。

**場 所**：南禅寺「順正」  
京都市左京区南禅寺草川町60 電話：075-761-2311

**会 費**：7000円

**申し込み、問い合わせ**：

支部事務局 伊原哲士

### 「日本山岳会京都・滋賀支部山水会講演（山の日イベント）」の案内

泰澄（たいちょう）は奈良時代に白山を開山した。越の大徳と称され、白山信仰は越前を中心に広まり、修験の霊場となった。現在、白山神社は全国に2700社を数える。

泰澄は越前国麻生津（あそうづ）の三神安角（みかみやすずみ）の次男として生まれた。14歳の頃、越知山で修行。36歳の時、白山を開山。時の元正天皇の尊崇を受けた。晩年は再び越知山で修行の日々を送り、86歳でその生涯を閉じる。

堀大介氏は「泰澄と白山信仰」の研究の第一人者。本講演会を日本山岳会京都・滋賀支部の公益事業として公開講演とします。多くの方々のご参加をお待ちしています。

\*講演会だけ参加される方は、事前予約は必要ありません。直接会場へお越しください。

**実施日**：2024年1月20日（土）  
13時30分～15時：講演

15時～15時30分：座談会、質疑応答

16時～：懇親会（同会館内・立食パーティー）

**懇親会費**：6000円

**会 場**：京都市職員厚生会職員会館「かもがわ」  
〒604-0901 京都市中京区土手町通夷川上る末丸町284  
TEL：075-256-1307 FAX：075-256-1309  
（京阪電車神宮丸太町駅下車、鴨川西側を南に下り徒歩7分）

**講 演 者**：堀大介氏（佛教大学教授・考古学博士）

**題 目**：「泰澄和尚と白山信仰」（仮）

**申し込み、問い合わせ**：

支部事務局 伊原哲士

### 北山探訪

#### ①灰屋山 △732.8m（Ⅲ宮）

**実施日**：2023年1月23日（火）

**集合場所・時間**：参加者に連絡

**行 程**：黒田小学校前→トロー峠→灰屋山（Ⅲ宮）  
→往路下山

**地 形 図**：1/25000 図「上弓削」

**山行の目安**：体力：2、技術：3 {注} 少々藪漕ぎあるかも

**担当者・リーダー**：八木 透

**申 込**：1月13日（土）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで

#### ②ホサビ山 △750.2m（Ⅱ河内谷村）

**実施日**：2023年3月23日（土）

**集合場所・時間**：参加者に連絡

**行 程**：道の駅美山ふれあい広場→野添→・467→平屋富士→・686→ホサビ山（Ⅱ河内谷村）  
750.2→野添谷川支流林道→野添→道の駅美山ふれあい広場

**地 形 図**：1/25000 図「島」、「中」

**山行の目安**：体力：3、技術：3 {注} 少々藪漕ぎ、倒木あり



担当者・リーダー：笠谷 茂

申 込：3月12日（火）までに所定事項記入の上、  
メールで担当者まで

## スキー山行（スノーシューでの参加も歓迎）

◎若狭駒ヶ岳 △780.1m（Ⅲ寺山）

実施日：2024年2月17日（土）

集合場所・時間：道の駅「若狭熊川宿」、時間は参加者に連絡

行 程：道の駅「若狭熊川宿」⇒河内川ダム（除雪末端）→・251→林道→東尾根→駒ヶ岳（往路下山）

※参加メンバー、積雪の状況によってコース変更あり。

地形図：1/25000 図「熊川」、「遠敷」、「古屋」、「饗庭野」

山行の目安：体力：3、技術：3

リーダー：須藤邦裕

担当者：笠谷 茂

申 込：2月3日（金）までに所定事項及び参加形態（スキー、スノーシュー）を記入の上、メールで担当者まで

不便ですが何とかたどり着きたい。参加者の体調により行程変更もある。その場合は備中松山城に変更し高梁の町を訪ねる。

実施日：2024年3月16日（土）～17日（日）

行 程：8月16日 京都駅（8:14 新快速 9:50）－姫路駅（10:22-14:20）津山駅

8月17日 津山駅（7:55-9:59）服部駅－鬼ノ城（往復）－服部駅（16:02-19:44）京都駅

申 込：宿泊予約の都合で2月15日（木）までに

山行の目安：体力2、技術1 歩行時間2日目約6時間

担当者：伊原哲士

## 山岳展望と秘湯の旅 「劔岳・立山展望 鯉温泉」

鯉温泉は富山の秘湯。三種類の温泉が湧出する不思議な温泉。白ナマズが泳いでいることから薬湯を発見。現在に続く。近隣の他の秘湯も訪ねたい。併せて、劔岳・立山の遠望を楽しみたい。

実施日：2024年2月18日（日）～19日（月）

集 合：近鉄京都線大久保駅西側（自衛隊大久保駐屯地側）午前9時

交 通：車走行

参加費用概算：約20000円

山行の目安：体力1、技術1 歩行時間約4時間

担当者：幣内規男

申し込み・問い合わせ：1月15日（月）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

## 歴史と文化の山旅 「青春18切符で行く岡山の城めぐりの山旅」

日程の関係で、当初の「長崎さるくと八郎岳」を変更する。「青春18切符」を使い廃線が予定される姫新線経由で岡山に入ります。列車の連絡が悪く、長い列車の旅になります。大和朝廷の古代山城の鬼ノ城も訪ねます。青春18切符で頑張りたいが、鬼ノ城は交通が

## 会務報告 支部役員会

### 第451回支部役員会

2023年8月2日(水) 18:30～19:00、引き続き納涼会実施

(於) まんざら 団栗橋 出席:12名 欠席:6名

#### 「開催挨拶」

納涼会段取りへのお礼。短時間での議事進行へ協力願う

#### 「報告」

7月に実施された岩稜登攀(明神岳)、大文字山納涼山行について報告

支部長・事務局長報告

猛暑(熱中症)への対応、遭難多発への注意喚起等

総務部会

会員動向について報告

支部運営交付金、支部事業助成金、新入会員報奨金の入金報告

山行部会、遭難対策部会、古道調査、出版関係

連絡事項など報告

#### 「計画」

8月、9月第1週に実施予定の山行計画について協議、承認

全国、他支部関係行事への対応確認

#### 「その他」

準会員制度が立ち上がった中、友の会制度の見直しに関し、現状をふまえ協議を行うこととした

### 第452回支部役員会

2023年9月6日(水) 18:30～20:40

(於) 鴨沂会館 出席:11名 欠席:7名

#### 「開催挨拶」

残暑厳しい折、参集お礼。

#### 「報告」

8月に実施された歴史と文化の山旅(元山上から千光寺)、健幸登山教室(八瀨ノ滝)、北山探訪(白倉岳)について報告

支部長・事務局長報告

記録的な暑さの影響、季節の変化への備え、伊吹山登山道の復旧予定等について伝達

山水会講演の提案

総務部会

会員動向について報告

HPメンテナンス契約締結、9月より開始

山行部会、遭難対策部会、古道調査、出版関係

連絡事項など報告

#### 「計画」

9月、10月第1週に実施予定の山行計画について

協議、承認

全国、他支部関係行事への対応確認

#### 「その他」

制度廃止を含めた友の会の見直しを協議

### 第453回支部役員会

2023年10月4日(水) 18:30～20:40

(於) 鴨沂会館 出席:13名 欠席:6名

#### 「開催挨拶」

協議事項に時間を割けるよう進行願う

#### 「報告」

9月に実施された健幸登山教室(西穂高岳)、今西錦司レリーフの集いについて報告

支部長・事務局長報告

支部連絡会(9月21日)の報告

新年会、山水会の実施予定連絡

総務部会

会員動向について報告

古道調査

2023年度活動中間報告、カンパ受付開始

山行部会、遭難対策部会、出版関係

連絡事項など報告

#### 「計画」

10月に実施予定の山行計画について協議、承認

全国、他支部関係行事への対応確認

山水会講演会(兼、山の日イベント)の概要確認

#### 「その他」

今西錦司レリーフ基金に関し、基金管理団体を、京都・滋賀支部の下部組織として位置付けることとする

友の会は期限を設け廃止、新規会員受付は終了することを決定

(笠谷 茂記)

## ＝次号 154号 予告＝

2024年3月15日発行 原稿締切1月31日(水)  
原稿送付先 編集担当 竹下節子

## ＝あ と が き＝

2008年から15年にわたって携わってきた支部だよりの編集担当を、今号の発行をもって退任することになった。次号の編集作業は、新しく竹下節子委員が担当される。支部長の巻頭挨拶にもある通り、支部の運営は、会員各位の協力があってこそ成り立つものであり、支部だよりの編集作業、発行への会員各位の引き続きのご協力をお願いしたい。

支部だより編集にあたっては、会員各位から寄せられる原稿内容を尊重し、明らかな間違いの訂正、原稿の中での用語の統一などは行うが、会員それぞれの文章の持ち味が損なわれないように心がけている。

その中で、編集作業の負担軽減のため、執筆者に気を付けていただきたい点がある。

例会報告や行事案内では、支部だよりに掲載されている記事の書式を参考にし、表題のつけ方、実施日や参加者名の記載、添付写真には必ずキャプションをつけるなど留意願いたい。特に、山名や地名の間違ひは避けたいところであり、「○○が岳」、「○○ヶ岳」、「○○ヶ岳」、「○○ヶ嶽」のいずれが正式の山名なのか等、国土地理院地形図などで確認願いたい。また、(良い、よい)、(行く、いく)、(中、なか) など同じ原稿の中での表現の統一にも注意してほしい。

支部だよりは、支部活動の貴重な記録である。今後とも会員から多くの原稿が集まり、充実した内容での発行が続くことを願っている。

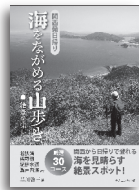
(中川 寛)

### 日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより153号」

発行所 〒520-2101 大津市青山4-1-5  
笠谷 茂方  
日本山岳会京都・滋賀支部  
発行者 笠谷 茂  
編集者 中川 寛  
印刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8  
(株)土倉事務所  
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

関西発日帰り 海をながめる山歩き

草川啓三著 ◎絶景を楽しむ  
若狭湾、熊野灘、瀬戸内海、紀伊水道：関西から日帰りで登れる海を見晴らす絶景スポット30コース！海をながめに山へかけませんか。 1760円



森の巨人たち

草川啓三著 ◎巨樹と出会う―近畿とその周辺の山歩きで出会ったスギ、ブナ、トチ、カツラなど、様々な巨樹の圧倒されるようなフォルム、個性、生命力。出会いの悦びと魅力を語る。 1980円



極上の山歩き

草川啓三著 ◎関西からの山12ヶ月 春夏秋冬ひとの心をとらえる珠玉の山の中から、達人がすすめるランキング上位の30山を新スタイルでガイドする。 1650円



雪山を愉しむ

草川啓三著 ◎関西からの日帰り雪山登山 美しい雪山の登山風景の写真をメインに、その山のコース概要やアドバイスなどを加えて関西とその周辺の雪山登山の魅力を紹介。 1980円



山登りはこんなにも面白い

窪田晋二・檀上俊雄・草川啓三・中西さとこ・横田和雄著 ◎静かなる私の名山を求めて 自分の意思をもって山に向かっている5人の登山者。それぞれが考える山登りの素晴らしさ、楽しさ、面白さを語る静山紀行。 1980円



ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>  
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は税込価格です



【木津屋橋本店】  
〒600-8248  
京都市下京区大宮通木津屋橋下ル  
営業時間：10：00～19：00  
休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー 075-341-7702  
2F/スポーツ車コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】  
〒601-8205  
京都市南区久世殿城町162  
営業時間：10：30～18：00  
休日：毎週水曜日・木曜日  
TEL：075-921-8679



●旧会員証でも構いません●  
日本山岳会 会員証のご提示で  
店頭価格から御値引いたします!

※特価品・SALE品は対象外です。  
詳しくはスタッフまで!

取扱いブランド | gan well | 三貴 | cinelli | Vittoria | HED. DOLAN | PINARELLO | LOOK | ANCHOR | SCOTT | FOCUS | Wilier | corratec など